



2026年5月1日

各位

会社名 クリングルファーマ株式会社  
住所 大阪市北区中之島四丁目3番51号  
Nakanoshima Cross 未来医療 R&D センター10階  
代表者名 代表取締役社長 安達喜一  
(コード番号: 4884 東証グロース)  
問い合わせ先 取締役 経営管理部長 村上浩一  
TEL. 06-7653-6728

## Reeve Summit 2026 への参加に関するお知らせ

当社は、2026年5月6日から8日まで米国ボストンで開催される「Reeve Summit 2026」に、Kringle Pharma USA, Inc. (当社の米国子会社) の President である Matthew Vogelhuber が参加することをお知らせいたします。また、当社は本サミットにおいて Silver Sponsor として協賛しております。

(本サミット公式サイト: <https://www.christopherreeve.org/todays-care/reeve-summit/>)

本サミットは、米国のクリストファー&ダナ・リーブ財団 (Christopher & Dana Reeve Foundation) が主催する、脊髄損傷を中心とした国際的なサミットであり、患者、家族、研究者、医療従事者、支援団体が集い、患者理解の深化、情報共有、コミュニティ形成を目的として毎年開催されています。

当社代表取締役社長の安達喜一は次のように述べています。

「Reeve Summit は、脊髄損傷当事者の皆さまやご家族、研究者、支援団体が一体となり、真に患者視点に立った対話が行われる非常に重要な場だと認識しています。当社がこのサミットに Silver Sponsor として参画し、直接コミュニティの声をうかがうことは、組換えヒト HGF タンパク質 (国際一般名称: oremerpermin alpha) を用いた脊髄損傷治療開発を進めるうえで極めて意義深い取り組みです。今回の参加を通じて、患者さんのアンメット・ニーズへの理解をさらに深め、米国を含むグローバルでの開発戦略に反映させていきたいと考えています。」

以上

### クリストファー&ダナ・リーブ財団について

クリストファー&ダナ・リーブ財団は、米国に拠点を置く非営利団体で、脊髄損傷をはじめとする麻痺の治療研究の推進および、当事者とその家族の生活の質向上を目的として活動しています。

同財団は、映画『スーパーマン』主演で知られる米国の俳優クリストファー・リーブが、1995年の事故により四肢麻痺となった後、自身と妻ダナ・リーブとともに脊髄損傷分野の研究・支援活動に尽力したことを契機として発展しました。

現在は、研究助成に加え、患者・家族への情報提供や支援プログラムを通じて、脊髄損傷コミュニティを幅広く支援しています。

## 脊髄損傷について

外傷性脊髄損傷は、交通事故や転倒等により脊髄が損傷されることで生じ、運動機能、感覚機能および自律神経機能に障害を来す疾患です。米国における外傷性脊髄損傷の年間発生率は、人口100万人当たり約54例とされており、年間約18,000例超の新規患者が発生しています。また、米国における患者数は約31万人と推定されています。近年では不完全四肢麻痺が最も多く、退院時点で完全な神経学的回復が認められる患者は1%未満と報告されています\*。

\*出典：National Spinal Cord Injury Statistical Center. Traumatic Spinal Cord Injury Facts and Figures at a Glance, 2026.

## HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGFは、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGFは神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之教授及び同医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALSに対する薬理効果は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGFへの期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGFの抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癒痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGFには、声帯癒痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

## クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象にHGFタンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGFタンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験を終了し、さらに追加臨床試験に向けた準備を進めています。また、声帯癒痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGFタンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。